

米先住民ナバホの人々が語る ウラン採掘・精錬の被害実態

2024年8月11日(日) 午後1:30~4:30

西宮市大学交流センター(講義室1)

阪急神戸線西宮北口駅北東「ACTA 西宮」東館6階
資料代:800円, 学生・障がい者400円

核兵器も原子力発電も、核エネルギーの元になるウラン鉱石の採掘・精錬から始まります。ウラン採掘・精錬は、その多くが世界中の先住民の土地で、環境汚染や採掘・精錬労働による被害を先住民に押し付けながら行われてきました。

先住民ナバホ・ネーションのコミュニティーの1つは、ニューメキシコ州のチャーチ・ロックの近く、ノースイースト・チャーチロック鉱山(NECRM)とクイヴェラ/カーマギー鉱山に挟まれ、ユナイテッド・ニュークレア社のチャーチロック精錬所(1977-1982年操業)の近くにあります。

二つの鉱山は1983年に廃坑となりましたが、大量の鉱山廃棄物の山が残されました。

チャーチロック精錬所は1979年に、放射性廃棄物貯留池ダムが決壊事故を起こし、コミュニティ周辺のみならず、放射能が流れ込んだプエルコ川流域の広範な地域が汚染されました。この事故は、同年に起きたスリーマイル島原発事故を超える、一回の放射能放出量では米国史上最大の事故でした。しかし、先住民の居留区での事故は、ほとんどマスコミ報道されることもありませんでした。

住民は、「ウラン採掘によって汚染された土地や水を元に戻し、住民の健康を取り戻し、私たちが生活する場所の自然と文化の環境を守り、存続させること」を目指して、住民組織《レッド・ウォーター・ポンド・ロード・コミュニティー協(RWPRCA)》を2006年に設立しました。《RWPRCA》は、独自の環境汚染調査に取り組み、鉱山会社や米国政府に対して、残された大量の放射性廃棄物の撤去などを求めて活動を続けています。《RWPRCA》の活動が契機となって、環境保護局によるウラン鉱山廃棄物の「除染」作業が開始されましたが、環境回復はまだまだ途上です。



この度、RWPRCAのリーダーであるエイディス・フッドさん(写真左・ウラン鉱山労働の経験者)とテラシタ(テリー)・ケヤンナさん(写真右)が、原水爆禁止日本国民会議(原水禁)の招聘で、被爆79年原水禁世界大会・広島大会(8月4日~6日)に参加します。その後、福島原発事故被災地で被害視察・交流(8日~10日)。旅程の最後に関西でも米先住民の核被害者=ヒバクシャと連帯し、「講演・交流の集い」を持ちます。ウラン採掘・精錬被害実態の報告と共に、広島や福島での交流を通じて感じたことなどもお話いただき、皆さんと話し合いたいと思います。ぜひご参加ください!

ウラン採掘・精錬被害実態の報告と共に、広島や福島での交流を通じて感じたことなどもお話いただき、皆さんと話し合いたいと思います。ぜひご参加ください!

主催:チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西

<問合せ>0797-74-6091(たなか), e-mail: cherno-kansai@titan.ocn.ne.jp

団体賛同募集(1口2000円) 郵便振替:00910-2-32752 口座名:チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西

